

## 「棋士のまち“加古川”」

### 加古川ゆかりのプロ棋士が6名も!!

加古川市は古くから将棋が盛んな地域で、子どもから大人まで熱心な愛棋家が多く、様々な大会や教室が開かれています。

また、昭和58年に神吉宏充七段が加古川市で初めてのプロ棋士となって以降、久保利明九段や井上慶太九段などが続き、令和3年には11年ぶりに横山友紀四段がプロ棋士となりました。全国のプロ棋士約160名のうち6名が加古川ゆかりであることは稀なこと。加古川市では「棋士のまち加古川」を掲げ、将棋を取り入れたまちづくりを進めており、その一環として「加古川清流戦」を

創設するなど棋士のまちを広く全国に発信するとともに将棋の普及に努めています。



加古川駅南側に設置されているベンチ。実際に将棋をさすことができます。

平成27年度からは市内の小学校の集会やクラブ活動において、プロ棋士が講師として小学校に出向き指導する「出前教室」を開催、また令和3年度から小学校の授業にプロ棋士を派遣する「将棋の授業」を行っており、今年度は8校での実施が予定されています。駒を手にキラキラと目を輝かせて将棋盤に向かう子供たち。この中から将来、新たな棋士が誕生するかもしれません。



サンライズ加古川前の時計台には詰将棋盤。



### 「かこがわ将棋プラザ」

ヤマトヤシキ7階にある「かこがわ将棋プラザ」は、加古川の将棋ファンが集う場として親しまれています。開催される将棋教室は定員オーバーするほど大人気。加古川の「将棋熱」がわかります。7月からは、第36回アマチュア竜王戦全国大会で優勝した、慶田義法（けいだ よしのり）さんが定期的に駐在される予定です。（くわしくは加古川ウェルネス協会HPを参照）

また、「将棋には興味あるけれど、対戦相手がいなから・・・」と思っている方、一人でも大丈夫！この将棋プラザではAIと対戦するソフトもあるんです。AIと対戦して勝った方には記念品をプレゼント！これまでに小学生が一人勝っているそうです。あなたも挑戦してみてください。



将棋プラザにあるAIソフト。



将棋プラザで販売されている「駒消しゴム」全種類、購入する人もいるのだとか。

知ってた？

## こんなところに「加古川の魅力」

「かつめし」「鶴林寺」「日岡山公園の桜など、加古川には多くの魅力あふれるものがありますが、今回ご紹介するのは加古川の隠れた魅力。あなたは知っていましたか・・・？

### 「加古川とレガッタ」

#### 「レガッタの歴史」

「レガッタ」という言葉を聞いたことがありますか？レガッタとはボートやヨットなどの大会のこと。起源は14世紀にベネチアで行われていたゴンドラ競漕で、原動力が無いボートなどを使って複数人が力を合わせて漕ぎ、勝敗を争うものです。

実は加古川はレガッタのメッカ。はじまりは1990年、加古川青年会議所の「加古川発見発明委員会」が何か新しい発見・発明はないか？と思案していたところ、委員会メンバーの一人が、知人から、大堰による緩やかな川の流れて「ここでレガッタができるのでは？」と言われたことをきっかけに、「加古川でレガッタ大会を開催する」ことを目標に動き始めました。

早速、関西学生漕艇連盟から視察が訪れ、直線コースが取れるとの返事をもらい、その後に関われた連盟の会議にメンバーがプレゼン資料を持って出向き、1時間の熱弁をふるい、加古川での大会開催にこぎつけます。思いついてから開催許可までの期間なんとたったの2週間。

関係機関と綿密な打ち合わせを重ねて開催された関西学生漕艇秋季リーグ選手権は、現在33回の開催を重ねています。レガッタが行われているコースは、社団法人日本ボート協会の公認コースB級（1,000m×5レーン）の認定を受けています。近年はボート競技以外にもカヌーの代表合宿が行われたり、2021年には、リオオリンピックカヌーの銅メダリスト羽根田卓也さんを招き、一緒にカヌーを漕ぐイベントが開催されるなど、広く内外に認められるほどにまでなりました。96年に建設された加古川漕艇センターでは、気軽に楽しめる機会を広げようとボートの貸出や初心者向けの体験教室を開催しています。毎年夏には「市民レガッタ」も開催され300~400クルーが参加する大会も今年30回目を迎え、レガッタは加古川を代表するスポーツとなりました。

今年も8月5・6日の2日間「加古川市民レガッタ」が開催されます。選手の力強い掛け声と華麗なオールさばきで川面を駆け抜ける姿を是非ご覧ください。



写真：加古川市立漕艇センター提供